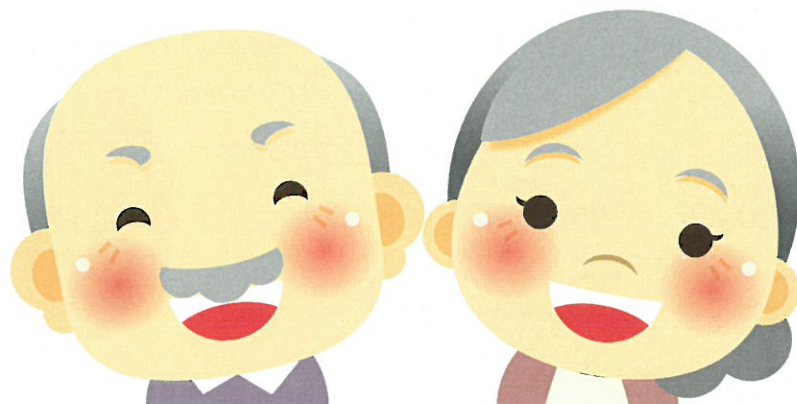


これからも自分らしく暮らそう

港区在宅医療・介護連携推進講演会



入場無料
事前申込
不要

在宅医療とは、通院が困難な患者さんや病院を退院して
自宅で療養している患者さんが自宅や施設で受ける医療の総称です。

年をとっても病気になっても、住み慣れた場所で、
自分らしい生活を続けるためのヒントを専門家がわかりやすくお話しします。

日時 平成29年 **2月1日(水曜日)**
午後2時～午後4時

場所 大阪市港区民センターホール
(大阪市港区弁天2-1-5)
☎ 06-6572-0020 Fax 06-6572-0274



**第1部 「教えて！
『お薬手帳』
—活用のススめ—」**

講師 イキミ薬局

いそぎみ そうへい
五十君 壮平 先生

**第2部 「地域包括ケアについて：
住み慣れた家で過ごす
ための病院の使い方」**

講師 JCHO 大阪みなと中央病院

つじ しんご
副院長 **辻 晋吾** 先生

問合せ先 大阪市港区保健福祉センター ☎ 06-6576-9882 Fax 06-6572-9514

主催：港区保健福祉センター

共催：大阪市港区在宅医療・介護連携推進会議（一般社団法人大阪市港区医師会、一般社団法人港区歯科医師会、港薬剤師会、JCHO大阪みなと中央病院、港区在宅医療・介護連携相談支援室、港区居宅介護支援事業者連絡会、大阪府訪問看護ステーション協会市西ブロック、港区サービス提供責任者のつどい、港区デイ事業者連絡会、港区地域包括支援センター、港区南部地域包括支援センター、港南・市岡東・築港ランチ）

あなたや大切な家族が重い病気になり、長い療養生活を送ることになったとしたら、どうしたいと思いますか？

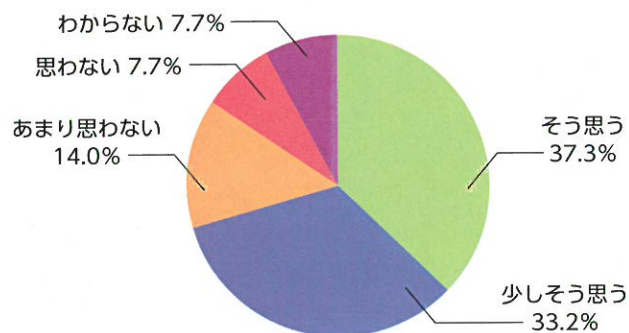
あなた自身も年を重ね、身体が思うように動かなくなり、病院に通院することが難しくなったとしたら、あなたはどこで、どのように過ごしたいですか？

27年度に行ったアンケートでは、回答いただいた70%以上の方が「住みなれた場所で、できるだけ長く生活したい」と考えていることが分かりました。

この希望に応えるために、港区では在宅で受けられる医療と介護サービスの連携をすすめています。

自分が疾病を抱えた時、在宅医療を利用して自宅等の住み慣れた場所で、できるだけ長く生活したいと思いますか。

【平成27年度第1回区民モニターアンケートより】



できれば、このままずっと家で過ごしたい。でも、家族に迷惑かけるかなあ？



だんだん身体が弱ってきて、病院に通ったり、買い物するのがしんどくなってきた。このまま動けなくなったらと思うと不安で…。



五十君壮平先生のプロフィール

平成18年大阪薬科大学卒業、平成19年 薬剤師免許取得、万有製薬株式会社入社、平成21年よりイキミ薬局で薬剤師として勤務（現職）

薬剤師として勤務の傍ら平成24年に福祉住環境コーディネーター、平成26年には介護支援専門員資格を取得し活躍の場を広げている。

辻 晋吾先生のプロフィール

昭和56年大阪大学医学部卒業、平成5年大阪大学医学博士号取得。昭和56年より大阪大学医学博士大阪大学医学部附属病院、昭和57年より関西労災病院、米国留学（アラバマ大学バーミンハム校、バンダービルト大学）、スウェーデンカロリンスカ研究所招聘、大阪大学大学院講師を経て、平成20年より大阪船員保険病院副院長、平成26年より大阪みなと中央病院副院長（現職）診療科は消化器内科